

## 二〇一九年度 グローバル入試・外国学生入試 試験問題

問題 以下の文章を読んで、問いに答えなさい。

日本では高齢者を中心に生活保護の受給世帯が増え続け、若年層などで非正規労働者の割合も高止まりしています。安倍政権はアベノミクスの成果を強調しますが、むしろ貧困は広がっているようにみえます。いまの生活保護制度は収入や資産の調査が厳しく、偏見の目でみられるのを懸念する人も少なくない。特に若者は「あなたは働けるでしょ」と門前払いされてしまいがちで、生活保護を受けずに、それ以下の所得水準で暮らす人も多い。

そこで貧困対策の一つとして、税財源から全国民に無条件で最低限の生活費を配る「ベーシックインカム」(BI)が考えられます。ただ、財源の確保が大きな課題になるので、現実的には、まず高齢者と10代後半～30代ぐらいの若年層へ優先的に給付することが望ましいと思います。BIなら選別はしないで、セーフティネットから漏れる人がいなくなります。

制度設計は様々で、例えば基礎年金や生活保護、失業手当などを一本化して支給する方法があります。高齢者には基礎年金がありますが、保険料の納付期間が短くて満額の月約6万5千円を受け取れない人も多い。特に女性の単身世帯を中心に、高齢者の貧困率は高い。そこで、基礎年金をBIに置き換えて、やや手厚めに月8万～10万円程度を支給するのです。

若年層は、IT化が進んで人手が少なくてすむ分野が増えたこともあり、最も失業率が高く非正規雇用も多い年代です。貧困の連鎖を防ぐ意味でも教育を含めた支援の強化が必要です。現役世代の親からの支援が見込めることなども考慮して、BIの金額は高齢者より少なめでもいいと思います。一定の生活を保障することで、NPO活動など収入になりづらい領域を含めて、それぞれの能力を伸ばす機会にもなります。

財源を確保するため、まず年金の報酬比例部分への課税を強化する。比較的高所得の人が対象になるので、格差是正にもつながります。相続税率も引き上げること、親から子供に格差が引き継がれるのを抑えることになります。基礎年金の保険料負担がなくなる分などは、消費税率の引き上げなどを財源とする必要があると思います。

BIによって「働く意欲が落ちるのではないか」という懸念もありますが、日本の社会保障制度は所得を再分配し、基礎的な生活を保障する機能が弱い。そこをどう強化していくのか、BIも含めて議論を進めるべきだと思います。(聞き手・生田大介)

(「教えて!政策チェック」6 高齢者・若者に生活費給付 議論しては 京大教授 広井良典さん)

『朝日新聞』 二〇一六年七月二一日付 朝刊

## 設問 1

右の文章を読んで、ベーシックインカムの利点と問題点を、一六〇字以上、二〇〇字以内で要約しなさい。

## 設問 2

右の文章で述べられている意見について、あなたの考えを、三六〇字以上、四〇〇字以内で述べなさい。賛成の立場でも良いし、反対の立場でも良い。

[illegible]

設問  
1

[illegible]

設問 2

[illegible]

(注) 表面のみを使用すること。